

令和 8 年度 第 1 回 新潟支部評議会 議事概要（確定版）

開 催 日 時	令和 8 年 7 月 21 日（火） 10：00 ～ 11：45
会 場	協会けんぽ新潟支部 支部会議室
出 席 評 議 員	秋葉評議員、金子評議員、加茂評議員、河野評議員、竹津評議員 近田評議員、村木評議員、森澤評議員、渡邊評議員（議長）〔五十音順〕
議 題	1. 令和 7 年度決算見込みについて 2. 令和 7 年度新潟支部事業実施結果について 3. 報告事項 ・コミュニケーションロゴ・タグラインの導入について ・都道府県単位保険料率の平準化措置の取り扱いについて ・中期戦略プランについて
議 事 概 要	
	各議題について事務局より資料に基づき説明。主な意見等は以下のとおり。
	議題 1. 令和 7 年度決算見込みについて
【 学 識 経 験 者 】	今後の国会にて、消費税率が議論される。消費税は社会保障費の財源に充てられているが、消費税率に変更があったとしても、決算には影響がないという理解でよろしいか。また、金利が上昇している中で、日本年金機構は資産運用で好成績を出している。協会けんぽとしても準備金が積み上がり続けていることから、資産運用を行うべきだ考えるが、どのような運用をしているのか。
【 事 務 局 】	たとえ消費税率が変更になっても決算に影響することはない。また、協会けんぽとしても昨年 12 月から 1,000 億円を資金として国債による運用を始めしており、約 4,000 万円の利益がでている。従来より定期預金での運用も行っている。
【 学 識 経 験 者 】	運用益は思ったよりも少ないという印象である。
【 被 保 険 者 代 表 】	国庫補助に対する特例減額の措置について、今一度ご説明いただきたい。 今回、平均保険料率が 10%から 9.9%に下がったことは、大きな取り組みだ

	と思う。一方で、時限措置として国庫補助が毎年 500 億円追加で減額となるが、その根拠についても改めてご説明いただきたい。
【 事 務 局 】	平成 27 年度から国庫補助に対する特例減額の措置として前年度において新たに積み上がった準備金の 16.4%相当額を控除する措置が行われているが、単年度収支差がプラスとなった翌年度の平成 23 年度から平成 26 年度までの間、現行の措置が行われていたと仮定した場合の控除額として約 1,500 億円を令和 8 年度から 3 年間に分けて追加減額（各年度約 500 億円）するもの。
【 事 業 主 代 表 】	新潟支部の保険料率は全国で最も低く、令和 8 年度は保険料率が 9.21%へ引き下げられたことはありがたい。一方で、平均標準報酬月額の上昇を上回る医療費や物価の高騰により、事業主や従業員の社会保障費が非常に負担になっている状況。私どもの団体に加入する企業の大半は中小企業であるため、その負担感は特に大きくなっている。そのような中で準備金をどのように扱っていくか検討してほしい。
【 事 務 局 】	準備金の活用に関しては、運営委員会等で議論されていく。 <u>議題 2. 令和 7 年度新潟支部事業実施結果について</u> ※事務局の説明後、熱中症と高血圧についてテレビ局の取材を受けたテレビ番組を視聴。（支部保健師が出演）
【 学 識 経 験 者 】	バイオシミラーや地域フォーミュラリーという言葉は意味が分かりづらい。ジェネリック医薬品の普及ではジェネリック医薬品（後発医薬品）という分かりやすい表現を併記したことで理解が進んだことから、バイオシミラーや地域フォーミュラリーについても、分かりやすい表現を併記すると加入者が理解しやすくなるのではないかな。 また、今見せてもらったテレビ番組も良かった。朝食を食べるのが熱中症と高血圧対策になるのはなぜか教えていただきたい。
【 事 務 局 】	今後、バイオシミラーや地域フォーミュラリーなど一般的に知られていない名称について説明する際には配慮する。 朝食の味噌汁等から塩分をしっかり摂ることが熱中症対策になる。また、3 食

	や十分な睡眠などの規則正しい生活習慣は血圧値の維持に有効である。
【学識経験者】	新潟県は醸造が盛んなため、「熱中症対策には味噌汁で朝ごはん」というようにアピールすると分かりやすくてよいのではないかと。
【被保険者代表】	当社（運送業）では2年前に血圧測定を開始した。自分なりにデータを集計した結果（対象：ドライバー、人数：40名、平均年齢58歳、昨年度平均血圧：138/83）、血圧測定を開始して1年間で従業員の平均血圧は2%程度下がったが、現在は設置前の血圧値に戻ってしまった。しかし、投薬治療中14名のうち4名が血圧測定をきっかけに投薬治療を始めたことは大きな効果である。一方、夜間勤務のドライバーもあり3食とることが難しく、食生活等を会社がどこまでサポートできるかが課題である。事業所における食事面のサポートには限界があるため、子どもの教育だけではなく大人向けの食育も実施していただけるとありがたい。また、高血圧者は熱中症のリスクが高まると認識しているが、日頃は減塩を心がけるよう指導され、夏場は塩分補給を勧められる。高血圧者に夏場の塩分摂取についてどう呼びかけたらいいのかわからない。
【事務局】	データヘルスアドバイザーの医師からは習慣的に血圧を測るだけで血圧を3mmHg下げる効果があるとの助言があった。まずは測ることを第一ステップとして、次に事業所全体で健康づくりに取り組むことにより、従業員の意識変容に繋げることが重要と考えている。また、新潟県医師会とにいがた脳心センターが連携して、診察時に医師から血圧指導してもらうよう働きかけを行っている。高血圧者はそれ以外の健康リスクも保有していることが多いため、あらゆる側面から健康リスクを下げる指導をしてもらうように医師会と連携していきたい。 大人の食育は、協会けんぽの保健師・管理栄養士を活用していただきたい。
【事業主代表】	3点質問する。 ①重症化予防対策は今までの5市に加え、令和7年度から協定締結した新発田市が加わっているが、その他の自治体へはアプローチしないのか。 ②子どもの健康教育は現在新潟市のみで実施しているが、令和9年度以降は新潟市以外でもぜひ実施していただきたい。 ③レセプト点検は、査定レセプトが減ることが理想だと思うが、医療機関の

	レセプト請求の質を向上させる取り組みを行っているのか。
【 事 務 局 】	①現在、新潟市と重症化予防対策の取り組みができるように調整している。 ②子どもの健康教育の地域拡大は、新潟市の結果を踏まえながら検討していく。 ③レセプト点検の一次審査は、支払基金が行っている。支払基金と協会けんぽとの協議の場で要望を伝えている。医療機関への適切なレセプト請求に関する指導は支払基金の役割である。
【 事 業 主 代 表 】	レセプト点検を行う中で請求誤りの傾向があるものに関しては、支払基金と情報共有を行って対策してほしい。
【 事 業 主 代 表 】	マイナ保険証に切り替わったにも関わらず、無資格受診が発生するのはなぜか。
【 事 務 局 】	退職等による資格喪失届は、事業主が日本年金機構へ法律上5日以内に提出することと定められている。しかし、届出がされていないと資格が有効のままとなり、無資格受診が発生する。速やかに提出していただくように日本年金機構と連携して、周知広報を行っている。
【 被 保 険 者 代 表 】	個人的な感想だが、日頃から従業員に勤務中は水分、経口補水液、タブレットを会社で用意し摂取するように言っているが、高血圧と塩分摂取は二律背反のことを言っていると常々思っている。さらに、飲酒も血圧や熱中症と関わりがあると考え、生活全般を見直さねばならず、ハードルが高くなっていくと感じてしまう。また、血圧測定をしていると、体調や状況によって血圧は変動することがわかる。血圧の正しい測定方法等のアドバイスを含め広報ができるとよい。
【 事 務 局 】	まずは血圧を測ろうという周知を行ってきたため、今後は高血圧を放置することのリスクも周知広報していく。血圧を測る時間は起床後1時間以内、排尿後、朝食前が一番正しい血圧値と言われているため、そのこともアピールしていきたい。
【 事 業 主 代 表 】	先程の話を総合的にまとめると、健康経営を実施している事業所は増えてい

【 事 務 局 】	るが、業種により勤務形態や生活習慣が異なるため、業種別のアドバイスを していくのもひとつの方法だと思う。逆に事業所が抱える課題や不安を拾い 上げて具体的な提案や、小冊子等があると活用できるのではないか。特に熱 中症だけでなく突然死の予防についても、高血圧を放置するリスクを含めた 情報発信が重要と考える。医師会と連携し、専門的な知識を加入者に分かり やすく伝えることで、行動変容につながるよう取り組んでいただきたい。 また、子どもの健康教育について具体的な指導内容を教えてもらいたい。 現在、運輸業や建設業にアプローチをしている。業種に合わせた具体的な健 康づくり情報を提供したいと考えている。 子どもの健康教育は、食生活や運動等、様々な内容を行う。事前に小学校と打 ち合わせを行い、例えば肥満の生徒が多い場合、肥満の話を避けるなど、小学 校の健康課題や要望を含めながら、オーダーメイド型で実施する。 <u>議題 3. 報告事項</u> 意見なし。
特 記 事 項	
・次回評議会は、令和 8 年 10 月開催予定。 ・傍聴者なし	